

2019年JAF中国ジムカーナ選手権第7戦 2019年JMRC中国ジムカーナチャンピオンシリーズ第7戦
フレッシュマンシリーズ第7戦 2019年JMRC全国オールスター選抜第7戦 ヒノデテクニカルジムカーナ [JAF公認No.2019-4025]

開催日：9月1日 開催場所：TSタカタサーキット 格式：準国内 主催：HINODE・C [JAF登録No.加盟34025]、CCN [JAF登録No.加盟35005]

フォト&レポート/JAFスポーツ編集部

BR2クラスは21歳の若手、吉崎太郎選手が優勝。満点チャンピオンに華を添えた。



期待の若手、吉崎太郎インテグラが満点チャンピオンを確定

全

7戦でシリーズが組まれるJAF中国ジムカーナ選手権は9月1日、広島TSタカタサーキットで最終戦が行われた。当日はあいにくのウェットコンディションでのスタートとなったが、雨足が弱まった午後は、路面も徐々に回復、ヒート2ではタイムアップする選手が相次いだ。

コースレイアウトは通常のTSタカタのジムカーナに倣って、順走で各コーナーをクリアした後に、最終コーナー部分の広いスペースでタイトなパイロンをこなしてゴールという設定。今回は路面が微妙なコンディションとなったことが影響したか、2本とも、パイロンよりも、脱輪によるペナルティが上回った。

参加13台と今回最多のエントリーを数えたBR2クラスは、前回の第6戦ですでにシリーズチャンピオンを確定済みの吉崎太郎選手が、条件の悪かったヒート1のタイムで、結果的に

2番手を2秒以上突き離して逃げ切った。今季5勝目をあげ、満点チャンピオンを決めた吉崎選手は、

「2本めは最後、パイロンに触ってしまいましたが、こういう状況の中で1本めのタイムで勝てたことは良かったと思っています。1本めは思ったよりタイヤが喰ったので、守りつつも攻める走りをしたのがタイムに繋がったと思います」

昨年まで乗っていたNAのFFアルトからDC2インテグラに乗り換えた一年目でチャンピオン獲得の吉崎選手はジムカーナ歴2年半、21歳の若手有望株。「チャンピオンが獲れたので次はSタイヤに履き替えてSAクラスで戦いたいです」と次のチャレンジに意欲を見せた。

11台がエントリーしたPN2+クラスは、全日本のPN3クラス同様、86/BRZとロードスターRFが混走するクラス。マツダのお膝元とあって、ロードスターRFが6台と過半数を

占める。しかし優勝はヒート2で2番手を3秒弱もぶちぎるタイムを叩き出した、86を駆った片山賢一郎選手のもとへ。今年から乗り換えた86での嬉しい初勝利を飾った。

「雨が好きな自分には今日は理想的なコンディションでした。2本めは水たまりの量も少なくなって、タイヤも新品だったので突っ込んで、立ち上がりもしっかり踏めたのでタイムアップできました。ジムカーナ始める前はずっとドリフトしてたので、昔の勘を戻しつつ、何とかコントロールできるようになってきました。去年まではインテグラに乗ってたんですけど、クラス移ってみて、やっぱり自分はFFは苦手だったんだと痛感しました(笑)」と片山選手。

1. BR4クラスは迫谷政則選手が見事逆転勝ちを見せた。
2. BRKは満点チャンプ確定済みの坂井一弥選手が6勝目を獲得。
3. BR4で3位入賞の日高洋選手。
4. BR2で3位入賞の中本信一選手。
5. 足立孝貴選手はFクラスで3位入賞。
6. 廣瀬健選手はPN1で3位入賞。





7. Fクラスは森岡誠選手が2本ともベストを奪って快勝。8. CDXクラスはヒート2で大きくタイムを上げた原和正選手が優勝。9. PN1クラスは山下友秀選手が逆転勝ちを収めた。10. PN2+クラスは2本とも圧倒的なタイムを叩き出した片山賢一郎選手が優勝。11. 「中国地区の第一人者の個選手に勝って嬉しいですね」。SA2クラスは今大会、ただ一人、1分30秒台をマークした藤井雅裕選手が快勝。12. 「タイヤの良さを生かす走りができました」。SA4+クラスは石原秀晃選手が僅差の戦いを制した。13. PN2+で3位入賞の内田敦選手。14. CLクラスは吉元勝選手が優勝。15. BR2クラス表彰の各選手。16. BR4表彰の各選手。17. F表彰の各選手。18. PN1表彰の各選手。19. PN2+表彰の各選手。20. SA2表彰の各選手。21. SA4+表彰の各選手。22. BRK表彰の各選手。23. CDX表彰の各選手。24. 前田光彦選手はFで2位入賞。25. BR2で2位入賞の尾崎則夫選手。26. BRKで2位入賞の岡田和浩選手。27. 高屋隆一選手はPN1で2位入賞。28. SA4+で2位入賞の藤木拓選手。29. BR4で2位入賞の丸岡茂選手。30. SA2で2位入賞の佃真治選手。31. 神田昌明選手はCDXで2位入賞。32. PN2+で2位入賞の池内隆選手。

片山選手が乗っていたインテグラは、同じ岡山のクラブ、T4の後輩である、今回BR2クラスで優勝した吉崎選手のクルマ。自分がオーナーとして乗ったクルマが2クラスを制覇した片山選手にとっては最高の一日となった。

一方、タイトル争いが持ち込まれたPN1クラスは熾烈なバトルとなった。ヒート1は全日本ドライバーでもある高屋隆一選手が1分43秒814を叩き出して、ライバル山下友秀選手を1秒引き離して暫定トップに立つ。高屋選手はヒート2で、さらに1分42秒677をマークするが、脱輪を取られて痛恨のペナルティ。対する最終ゼッケンの山下選手は1分43秒662でゴールし、逆転に成功。シリーズリーダーの座を守り、初の中国チャンプを確定させた。

「スタートする前に高屋さんの脱輪を聞いたので、「やっぱり楽に走った方がいいんだ」と肩の力を抜いて走ったのが良かったのかもしれない

ん。チャンピオンは勿論、嬉しいんですけど、高屋さんがミスした結果として転がり込んできたものなので、次はしっかりタイムを残し合った上で決めたいですね」と語った山下選手は、九州地区では名うてのFRスペシャリスト。6～7年前から参戦を始めた中国地区戦で高屋選手を打倒すべく、今季はBRZからロードスターに乗り換えた。

「BRZは難しかったんですけど、ロードスタ

ーは動きが素直で直感でいけるところがあるのが、短期間で結果を出せたことに繋がったと思います」

一方、敗れた高屋選手は、「グリップが明らかに上がったんで、ぬるい走りだけはしなくなかったので詰めたんですけど、まあ攻めた結果だから仕方ない。今回の経験を次に繋げたいと思います」とキッパリ。ハイレベルなバトルの第2章は、すでに始まっているようだ。